

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	いっばんだんほうじん きょうとうがくはやしかたどうめいかい		
	制作団体名	一般社団法人 京都能楽囃子方同明会		
	代表者職・氏名	理事長・河村 大		団体ウェブサイトURL
		https://noh-doumeikai.com		
	制作団体所在地	〒	616-8372	最寄駅(バス停)
		JR嵯峨嵐山駅		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック		<input checked="" type="checkbox"/>	※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒		最寄駅(バス停)
	制作団体 設立年月	1912年12月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	理事長・河村 大 理事・左鴻泰弘、吉阪一郎、成田有辞、前川光範 監事・西村保美		正会員 所属能楽師14名 加入条件 京都府を活動拠点とする能楽囃子方	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	谷口正壽	
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	谷口正壽	
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号	
	<a href="mailto:taniguchi@noh-doumeikai.com">taniguchi@noh-doumeikai.com</a>		0756002259	

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	大正7年(1912年)、在京都の能楽囃子方が集まり「同盟会」を立ち上げました。戦中戦後の混乱期に一時自然解散しましたが、昭和30年「同和会」として再出発しました。以後、毎年1回囃子方ならではの公演に取り組み、昭和61年に、名称を「同明会」に改めました。平成15年より8年間、能楽囃子の音楽性にスポットを当てた、「囃子堂」公演にも取り組み、「同明会能」とあわせて毎年2回の公演を行ってきました。平成24年10月に一般社団法人京都能楽囃子方同明会として法人を設立。25年度よりワークショップを中心とした学校公演や、子ども達だけで実演する、こども能楽囃子教室など次世代に能楽の魅力を伝える活動を展開しています。
	学校等における公演実績	平成25年度より学校公演実績あり。累計52公演 令和3年度 学校・アート・出会いプロジェクト「体験！能囃子の世界」2公演 令和4年度 「こども能楽囃子教室」2公演 令和5年度 学校・アート・出会いプロジェクト「体験！能囃子の世界」2公演 「こども能楽囃子教室」2公演 令和6年度 みんなで学ぼう伝統文化教室 1公演 「こども能楽囃子教室」2公演 令和7年度 「はじめてののうばやし」1公演 「こども能楽囃子教室」2公演 学校・アート・出会いプロジェクト「体験！能囃子の世界」1公演
	特別支援学校等における公演実績	平成25年度 大阪府立刀根山支援学校(他事業) 平成26年度 三重県立特別支援学校北勢きらら学園、県立奈良西養護学校 平成27年度 青森県立若葉養護学校 平成28年度 長崎県立虹の原特別支援学校 平成30年度 福島県立相馬支援学校 令和3年度 熊本県立松橋西支援学校 令和7年度 京都府立向日が丘支援学校(他事業)

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://youtu.be/7-qg-hV0STU">https://youtu.be/7-qg-hV0STU</a>
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: <input type="text"/> PW: <input type="text"/>

別添

なし

【公演団体名 一般社団法人 京都能楽囃子方同明会 】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	能楽セレクション ～能囃子「獅子」と狂言「附子」～			
企画のねらい	<p>欧米を起源とした文化が爛熟する現代において、能楽は高尚でとっつきにくいイメージがあります。しかしながら、能楽を発祥とした日常生活の何気ない言葉や習慣などが数多くあり、実は能楽文化は日本人に根付いた身近な芸能であることを伝えたいと思います。まず、ワークショップで伝えた、きちんと挨拶をすることから始まり、迫力満点の能囃子「獅子」と、愉快極まる狂言「附子」を鑑賞して、能楽の面白さを知ってもらい、能楽師と「三番三」を共演することで、腹を据える、腰を入れると言った、古来日本人が行ってきた基本動作を学び、日本人が元来持っている“芯の強さ”を身につけて欲しいと思います。また当企画は、音楽である能囃子と喜劇である狂言で構成しますので、大いに楽しむことができ、言うなれば“能楽いいとどり”の内容です。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>演目概要:日本のクラシック音楽「能囃子」と世界に誇る喜劇「狂言」を体験し、鑑賞する公演です。                      1. 始まりの挨拶と能楽の歴史の紹介…居住まいを正し、きちんと挨拶をし、能楽の概要や歴史をわかりやすく説明します。                      2. 囃子ってなあに?...各楽器の説明をして、能囃子の音楽としての魅力を解説します。                      3. 能囃子「早笛」を聴こう…龍神や鬼が登場する際に演奏される軽快で、ハイテンポな登場の音楽です。                      4. カケ声の不思議…能楽囃子の特徴であるカケ声を体験して頂きます。カケ声を実際にかけて事で間のとり方がどんな風になるのかを体験します。                      5. 能囃子「獅子」を聴こう…文殊菩薩の霊獣獅子の舞曲です。静と動・間合のやりとり・気迫が充実した曲で、日本のクラシック音楽“能囃子”の真髄と言える曲です。                      休憩 希望者は楽器を体験できます。(ふれあいタイム)                      6. 三番三共演…翁に付随する狂言の舞曲です。大変めでたい曲で、児童生徒は舞を舞い、小鼓と大鼓を演奏します。                      7. 狂言ってなあに?...狂言の喜劇性について解説し、児童生徒は狂言の「笑ひ」を体験し、「附子」について解説します。                      8. 狂言「附子」をみよう…主人は外出するにあたり、二人の召使いに附子を預けて、「これは吹く風に触れるだけでも死んでしまうほどの猛毒だから、注意しながら留守番をするように」と云い付け出掛けます。残された召使いは中身が気になり、恐る恐る近づいてみると、毒ではなく飴であることに気づいて全て平らげてしまいます。このままでは主人に叱られると思い、わざと主人が大切にしていた掛け軸と茶碗を割って、申し訳なく思い自害しようと附子を食べたと釈明しようと企みます。やがて主人が帰ってくると、散々な有様を見て問い詰めますが、召使いの嘘に気づくと、召使いは「許させられい」と逃げだし、主人は「やるまいぞ！」と追いかけてゆくのでした。                      9. 質問・感想のコーナー…感想を聞き、様々な疑問にお答えします。                      10. 最後に始まりと同じく、居住まいを正して、きちんと挨拶をします。                      演目選択理由:能楽は、演劇・舞踊・音楽・文学・美術など様々な要素が入った、総合芸術です。この公演は能楽の音楽である囃子と喜劇である狂言にスポットを当て、親しみやすく能楽を紹介します。                      能囃子は、大人が聞いても十分に満足のいく芸術性の高い曲ばかりです。退屈しないようテンポの速く軽快な「早笛」、気迫が充実した「獅子」などを織り交ぜ、能楽囃子の魅力をわかりやすく伝えられるように選曲しました。                      児童生徒との共演曲「三番三」は同じリズムの繰り返しなので児童生徒でも演奏しやすく、舞は扇を持ち鈴を振る所作が親しみやすいことから選びました。                      狂言「附子」は、教科書にも採用されている有名曲です。教科書に載っている台詞を、本物の言葉遣いで聞けるよう選択しました。この公演は、特に能楽の魅力が感じられる演目ばかりです。とすれば難解と言われる能楽でも、音楽である囃子と喜劇である狂言ならば理解と言うものを必要とせず、純粋に見て聞いて面白いと感じて頂けます。                      能囃子は、わずか4人で30人のオーケストラに匹敵するといわれます。また、狂言独特の擬音を取り入れた演出は、喜劇でありながら品格を保つ“おかしい”面白さです。能囃子の「迫力」と狂言の「愉快」を存分に伝え、西洋の芸術とは異なる、能楽の素晴らしさが伝わる公演にしたいと思います。</p>			
児童・生徒の参加または体験の形態	<p>児童生徒共演のコーナーでは、児童生徒達は、ワークショップで体験した「三番三」の舞と小鼓・大鼓を打ちます。選ばれた舞2名、小鼓3名、大鼓3名の1組8名×3組の児童生徒が、実際に扇と鈴、楽器を持ち、舞を舞い、小鼓と大鼓を打ちます。この時、出演能楽師の舞、笛、小鼓、大鼓が加わります。選ばれなかった児童生徒達も手拍子で参加したり、足拍子を一緒に踏むなど、会場全体での共演となります。                      カケ声の不思議では全員でカケ声をかけて間をとり、狂言ってなあに?のコーナーでは狂言の”大笑ヒ”を全員で体験し、能楽の表現法を学びます。                      また休憩中に、小鼓と大鼓の体験コーナーを設けます。人数の都合上ワークショップでは楽器体験できなかった学年や、鑑賞に訪れた一般の方等と、直にふれあうことで、児童生徒達と能楽師の距離を縮めたいと思います。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	24人(舞台上で小鼓・大鼓を演奏する子供達)	
		鑑賞人数目安	800人	

本公演・ワークショップの内容

<b>本公演演目</b>  <b>原作/作曲</b> <b>脚本</b> <b>演出/振付</b>	能囃子「獅子」 作者…不明 狂言「附子」 作者…不明 プログラム 1. 始まりの挨拶 2. 囃子ってなあに? 3. 能囃子「早笛」を聴こう 4. カケ声って不思議 5. 能囃子「獅子」を聴こう 休憩 6. 「三番三」共演 7. 狂言ってなあに? 8. 狂言「附子」をみよう 9. 質問・感想のコーナー 10. 終わりの挨拶プログラム		
	公演時間	95	分
<b>出演者</b>	笛 <b>杉市和、森田保美、左鴻泰弘、杉信太郎</b> の内1名 小鼓 <b>林吉兵衛、吉阪一郎、曾和鼓堂、古田知英、林大和、林大輝</b> の内1名 大鼓 <b>河村 大、石井景之、谷口正壽、井林久登、渡部諭、河村凜太郎</b> の内1名 太鼓 <b>前川光長、井上敬介、前川光範</b> の内1名 案内人 <b>谷口正壽、林大輝</b> の内1名 狂言 <b>茂山千五郎、茂山茂、茂山宗彦、茂山逸平、茂山千之丞、松本薫、島田海洋、井口竜也、山下守之、増田浩紀、鈴木実、茂山千三郎、茂山忠三郎、山口耕道、大蔵基成、山本善之、岡村宏懇、黒川亮</b> の内4名 (太字は重要無形文化財総合指定保持者) 計9名		
<b>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴</b> ※3名程度 ※3行程度/名	茂山千五郎…大蔵流狂言方。昭和47年生まれ。4歳で初舞台。四世茂山千作、五世茂山千作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。京都の狂言を束ねる茂山千五郎家当主。全国のみならず、世界で活躍する狂言方。平成17年度文化庁芸術祭新人賞、平成20年度京都市文化賞奨励賞受賞。(出演交渉中) 茂山千三郎…大蔵流狂言方。昭和39年生まれ。3歳で初舞台。三世茂山千作、四世茂山千作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。50ヶ国に及ぶ海外公演をはじめ、多ジャンルとの交流、演出家としても活躍。平成11年京都文化奨励賞、平成16年京都市芸術新人賞、平成26年京都市文化功労章受賞。(出演交渉中) 谷口正壽…石井流大鼓方。昭和43年生まれ。谷口正喜に師事。重要無形文化財総合指定保持者。10歳で初舞台。京都を中心に数多くの能楽公演に出演する。学校公演やこども教室など次世代に能楽の魅力を伝える活能の他、様々なジャンルとのコラボレーションにも出演し、能楽の新たな可能性を探る。		
<b>本公演</b> <b>従事予定者数</b> <b>(1公演あたり)</b> <b>※ドライバー等</b> <b>訪問する業者人数</b> <b>含む</b>	出演者: 9 名 スタッフ: 1 名 合計: 10 名	<b>運搬</b>	積載量: 0.5 t 車長: 4.9 m 台数: 2 台

<b>本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安</b>	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度	
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	11:00	11:00-12:30		13:30-15:05	10分	15:15-15:45	16:00
※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
<b>本公演 実施可能日数 目安</b>  <small>※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。</small>	6月	7月		8月		9月	
	20日	13日		6日		19日	
	10月	11月		12月		1月	
	21日	19日		14日		14日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計	126日	
<b>本公演・ワークショップの内容</b>  公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)  <small>※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡」</small>				<b>図1</b> フロアに設置した状態。 体育館サイズに合わせ縮小可能 設置に必要な寸法 最大 縦9m×横11.7m			
				<b>図2</b> ステージに設置した状態。 ステージサイズに合わせ縮小可能 設置に必要な寸法 最小 縦3m×横7m×高さ2.4m			
				<b>図3</b> 三番三共演 舞2人、小鼓3人、大鼓3人×3組、 計24人が舞台に出て共演します。			
				<b>図4</b> 狂言「附子」 "あおげ～あおげ～" "あおぐぞあおぐぞ"			
<b>著作権、上演権等の許諾状況</b>	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否		該当なし		該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名			許諾確認状況		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人 京都能楽囃子方同明会 】

ワークショップのねらい

三番三の舞・小鼓・大鼓の体験では、西洋を起源とするダンスや音楽とは違う、「舞」「鼓」独特の表現法・演奏法を学びます。  
 西洋を起源とする文化に慣れ親しんだ、こども達や先生方にとって、能楽は、日常から縁遠い芸術かも知れません。ワークショップを通じて、能楽とは特別・特殊なものではなく、身近なものだと感じてもらいたいと思います。そして、ダンスや洋楽とは違う、日本の伝統的な価値観や姿勢・カケ声・間を知り、世界に誇る能楽の特徴を理解して、「肚を据えて、気を込める。」ことを体験することにより、日本人が元来持っている、芯の強さを身に付けて欲しいと思います。  
 能楽は礼に始まり、礼に終わります。挨拶は、コミュニケーションの第一歩です。姿勢を正し、心を添えて挨拶することで、相手への尊敬を表します。互いに尊敬し合うことで、自他の存在を認め、心を開き近づくことができると思って欲しいと思います。  
 能楽では、数百年前の楽器を当たり前に使っています。これは、楽器のことを「道具」と呼び、とても大切にしているからです。大事に使えばいつまでも使える、道具の大切さを伝えるなど、教科書からは得られない、伝統的普遍的価値観を伝えたいと思います。

児童・生徒の参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

100人

ワークショップの内容

ワークショップ実施形態及び内容

公演当日に共演する「三番三」の舞、小鼓、大鼓を指導します。  
 能楽囃子と狂言という日頃見ることのない芸術を親しみやすく伝えるため、それぞれの専門家である、狂言方・小鼓方・大鼓方・笛方(全員能楽師)の計4名でワークショップをします。  
 能楽は日常の稽古が大切です。ワークショップ終了後に、構えや所作、打ち方の練習用に、鈴と扇。小鼓と大鼓のレプリカをお渡しし、それを使って繰り返し練習してもらいます。

1. 始まりの挨拶…居住まいを正し、きちんと挨拶します。
2. 三番三ってなあに？…三番三を鑑賞し、舞の意味や構成や特徴をわかりやすく説明します。
3. 三番三を舞おう…三番三の舞の指導をします。  
休 憩 10分
4. 小鼓ってどんな楽器？…小鼓の打楽器でありながら、一つの楽器で音色を変えられる、世界的に見ても珍しい希な構造や演奏法を紹介します
5. 大鼓ってどんな楽器？…大鼓は小鼓とよく似ていますが、性質は全く正反対です。特徴と演奏法を紹介します。
6. カケ声を掛けよう…どうしてカケ声を掛けるのかを解説し、カケ声には何が大切なのかを解説し、みんなでカケ声を掛けます。
7. 三番三を打ってみよう…公演当日に、共演する「三番三」の小鼓と大鼓を指導します。能楽囃子を聞いてみよう…公演当日に共演する「三番三」を実演します。
8. 三番三を体験しよう…児童生徒達に実際に、扇と鈴、楽器、を持って三番三の稽古をします。
9. 質問感想コーナー…不思議に思ったこと、興味を持ったことなど、何でもお答えします。
10. 終わりの挨拶…始まりと同じく居住まいを正してきちんと挨拶をします。  
(100分)

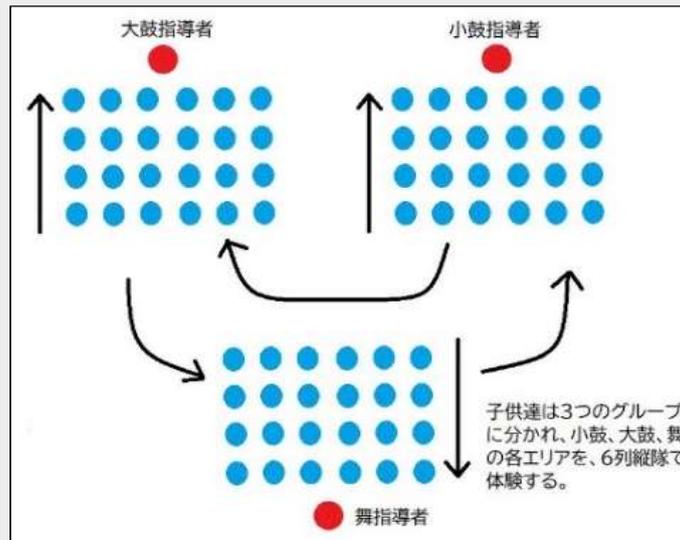


図5  
ワークショップ体験イメージ

その他ワークショップに関する特記事項等

全員が当方にて用意した本物の道具を使い、3グループに分かれ。三番三の舞・小鼓・大鼓をそれぞれ体験します。ワークショップ終了後は本公演に向けての練習していただきます。練習の際に使う、鈴と扇、小鼓・大鼓のレプリカと、練習用動画のDVDとテキストをお渡しし、動画を見ながら、繰り返し練習していただきます。



図6 図7 図8 扇と鈴、小鼓レプリカ、大鼓レプリカ

ワークショップ後、扇と鈴を2セットと、当方が空き缶と段ボール紙で作った、本物そっくりの小鼓と大鼓のレプリカを各3丁ずつ使い練習して頂きます。共演1組分をお渡します。

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通  
No.4(共通)

別添

なし

【公演団体名 一般社団法人 京都能楽囃子方同明会 】

## 記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。  
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。  
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。  
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

## 会場条件

<b>(必須)</b>	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
会場の設置階の制限	条件なし		主幹引き込み電源容量	不要	A以上
舞台設置面積	間口	11.7 m	奥行	6.2 m	
	高さ	2.2 m			
舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	可	
搬入間口の広さ	幅	0.9 m	高さ	1.8 m	
遮光の要否	不要		緞帳の要否	不要	
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定	なし	
			ピアノを使用しない場合の移動の要否	要	
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離	50 m以内	
搬入車両の種類	普通車		台数	2 台	
搬入車両の大きさ	車幅	1.9 m	車長	4.9 m	
備考	舞台寸法は最大値を記載しています。現場のサイズに合わせて設置します。ステージ上に設置の際の最小寸法は間口8m、奥行3.6m、高さ2.2mです。				

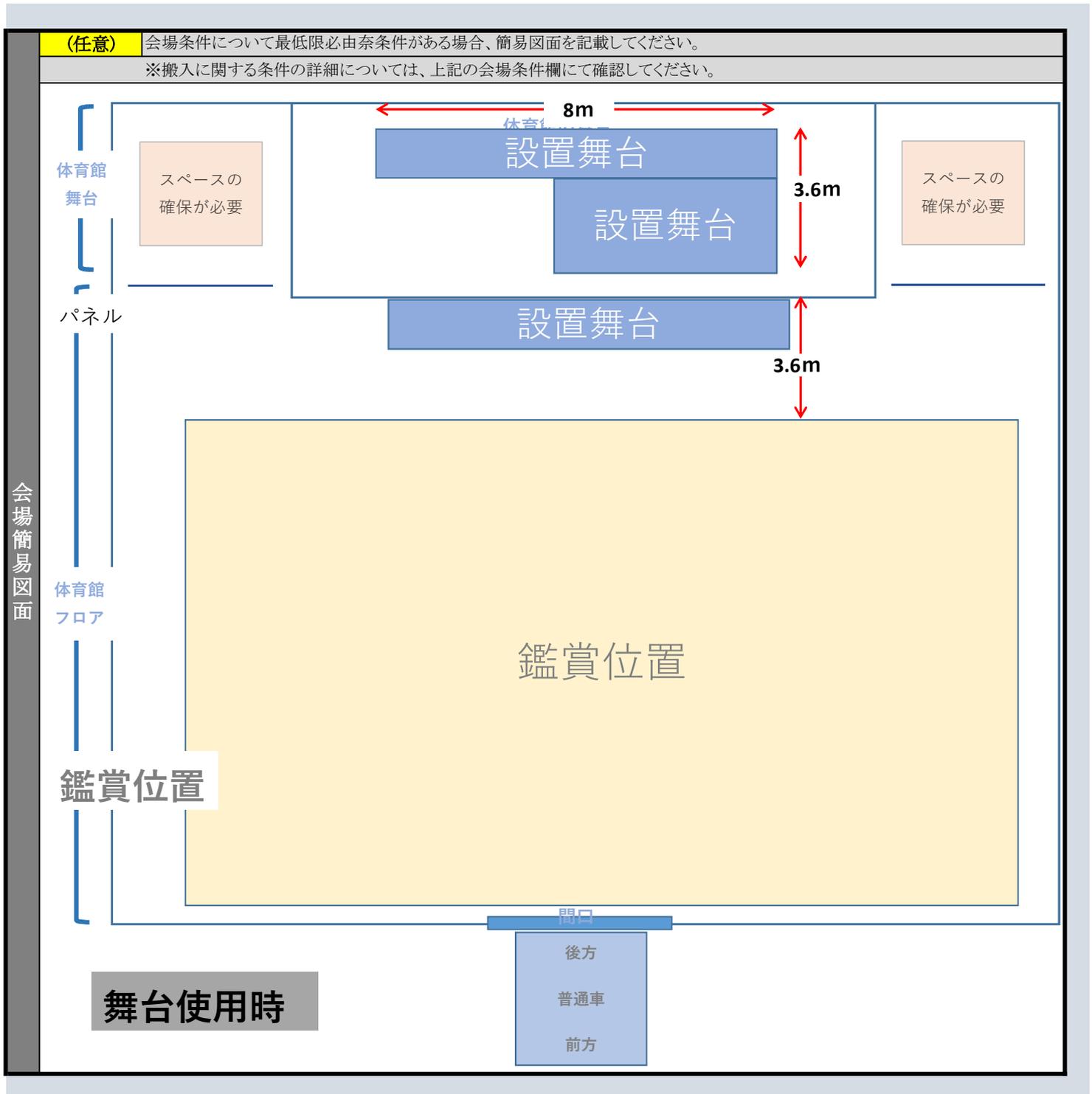
※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

## 学校からの情報

<b>(任意)</b>	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	不要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	不要	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	30分程度	ワークショップ後の休み時間や、自宅練習を想定	三番三の舞の練習	型付(舞踏譜)をお渡ししますので配布してください。また、鈴と扇を2セットお貸ししますので、お使いください。
ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	30分程度	ワークショップ後の休み時間や、自宅練習を想定	三番三の小鼓と大鼓の練習	手附(楽譜)をお渡ししますので配布してください。また、小鼓・大鼓のレプリカを3セットお渡ししますのでお使いください。	
本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	20分	本公演開始30分前	三番三の舞・小鼓・大鼓のリハーサル	共演する児童生徒は参加必須となります。	
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。
	個別ヒアリング事項	
	1	
	2	
3		



別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人 京都能楽囃子方同盟会】

本事業への応募理由等	<p><b>【本事業を通じて実現したいこと】</b></p> <p>「能楽」は、ユネスコの世界無形遺産に登録されるなど、世界中から高評価を得ています。しかしながら、国内の観客の多くは一部の愛好家に限られ、観客の高齢化もあり国内の観客動員数は年々減少しています。また、これまで実施してきた学校様では子供達は元より、教員のほとんどが初めて能楽を見たという状況です。このままでは、数十年後には消滅してしまうのではとさえ思えるほどの、危機的状況です。このような状況になった原因の一つに、現代の日本人は日本のことにあまり興味を持たないという事があるかと思えます。これは、幼少の頃より西洋文明の教育ばかり受け、日本の伝統を学ぶ機会が無かったこと、能楽は高尚だがとつきにくく、敷居が高く、理解が難しいという固定観念があることが一因かと思えます。当会は、この巡回公演事業を通して、世界に誇る日本の伝統芸能「能楽」にふれていただき、古典でありながら現代でも通用する芸術性の高さ、素晴らしさがある一方、り音楽(囃子)の迫力、喜劇(狂言)の面白さ、愉快さなど”理解”を必要としない親しみやすさがある芸術であることを、次代を担う子ども達に伝え、日本の伝統を守っていききたいと考えます。</p> <p>上記を実現するため、当会は、能楽の中でも特に親しみやすい喜劇の「狂言」と音楽の「能囃子」にスポットを当てた公演をします。</p> <p>狂言は、擬音所作などで実際には存在しない物を観客の想像力を持って舞台上に出現させます。また、能囃子は、西洋音楽の「ド・レ・ミ」(絶対の音楽)とは全く違う、日本独自の「間と気」で作られ、場面場面を観客の心に直接うったえかける音楽(相対の音楽)です。その素晴らしさを感じられる公演にしたいと思えます。</p> <p>能楽の特徴的な芸術的要素の一つに「気迫」というのがあります。「気」とはすなわち「心」です。演者や演奏者は、自身の「気」を共演者に伝えると同時に、共演者の「気」をとらえながら演技・演奏することで独特の緊迫感が生まれます。この「気」をカケ声や舞の姿勢によって表現し体感することで、子供達のコミュニケーション力の向上につなげたいと思えます。そして、「目には見えない、耳には聞こえない何か」を感じとることが、現代日本人が忘れてしまった五感以外の感覚を呼び覚まし、子ども達の感性を育み、芸術鑑賞能力の向上につながると信じます。また、能楽の基本である「腰を入れ、肚を据えて、気を込める。」ことを体験することにより、日本人が元来持っている、芯の強さを身に付けて欲しいと思えます。</p> <p>能楽は礼に始まり、礼に終わります。挨拶は、コミュニケーションの第一歩です。姿勢を正し、心を添えて挨拶することで、相手への尊敬を表します。ワークショップ、本公演で、“挨拶”という言葉の意味を伝え、挨拶とは互いに尊敬し、自他の存在を認め、心を開き、相手に近づくことができると知って欲しいと思えます。将来、子ども達が海外の方と交流する時に、日本にはこのような素晴らしい芸術がある、このような伝統があることを伝えて欲しいと思えます。</p> <p>最後に、子ども達と能楽師が気軽にふれあうことで、「能楽」とは特別・特殊なものではなく、身近なものだと感じてもらいたいと思えます。</p>
	<p><b>【学校との連絡調整について】</b></p> <p>公演の為に公演責任者(コーディネーター)を置き、実施校と緊密に連絡を取ります。学校側は、能楽公演は初めてのところが多いかと思えます。</p> <p>そこで、公演責任者は、この公演は、小中学生向けにわかりやすく、面白い演目を用意しており、共演曲の「三番三」は単純な所作と同じリズムを繰り返すだけですぐに覚えられる事などをお伝えし、なごやかにワークショップや公演を進めていくこと。鑑賞人数により体育館のアリーナを使うかステージを使うかを協議し、10名程度が休憩できる控え室(空き教室1つ)、普通車2台分の駐車スペースを確保する必要があることなど、公演の意図や、舞台設営に必要なスペースを丁寧に説明するほか、実施校のスケジュール要望を出来るだけ聞き、打ち合わせて日程調整をします。</p> <p>また、公演やワークショップの詳しいタイムスケジュールなどの内容をくわしく記した書類を送付し、当会のホームページ上でも、プログラムを見られるようにします。</p>
<p><b>【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】</b></p> <p>能楽は日常の稽古が大切です。学校にはたくさんの道具や楽器がありますが、扇や小鼓・大鼓は無いと思えます。そこで、扇と鈴、小鼓と大鼓のレプリカをお渡しし、公演当日まで繰り返し練習できるようにYouTube上に公開しているお稽古動画やDVDをご覧頂き、三番三の舞の所作、小鼓、大鼓の打ち方を習得してもらいます。</p>	
<p><b>【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】</b></p> <p>能楽に興味を持った子供達に向け、当会のHPやYouTubeチャンネルに楽器の紹介や、その秘密に迫る情報を掲載したり、簡単に自主稽古できる動画を掲載するなど、当会のオンラインコンテンツを充実させることで、継続的な学びにつなげていきます。</p>	

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫